

令和6年度		学校評価総括表			五條市立五條小学校			
学校教育目標		夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～自立・自律・自学～					総合評価	
運 営 方 針		○使命感・責任感・情熱をもって取り組む教職員集団で、子どもたちが「元気に登校 笑顔で下校」する学校づくりを推進して、「社会を生き抜く力」を育てる。 ○非認知能力（みつける力・やりぬく力・つなげる力）の育成をもとに、子どもたちに「確かな力」を身につける学校づくりを推進する。 ○15歳の目指す姿を求め、小中一貫教育を推進する。					B	
令和5年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標				
○めあてと振り返りを重視した『五小スタンダード』を意識した授業を展開することで、『授業が楽しい』と答える児童の割合が92％に達した。 ○『5Gプロジェクト』を年間を通して取り組んだことで、挨拶をする習慣が児童につき、主体的にあいさつする児童が増えた。 ○楽しいと思える体育の授業や、外遊びチャレンジに全校で取り組むことで、『体を動かすことが好きだ』と回答した児童の割合が98％に達した。 ●学習意欲と学力に2極化が見られる。また、「読む」「書く」の力などの基礎基本の学力の定着にも課題がみられる。 ●『学校が楽しい』と答える児童の割合が86％だったので、全校児童が『学校が楽しい』と思えるような取組を推進していく必要がある。 ●『平日に、スマホ・携帯を2時間以上使用している』とアンケートで答えた児童が4割いることから、家庭への啓発はもとより、外部講師を招いてのメディアリテラシー講座や、中部学園で連携してのアウトメディアの取組を、継続して行う必要がある。		◎確かな学力をつける。		○あきらめずにやりぬく力や自ら考え発見したり、解決したりする力を培い、主体的に学ぶ児童を育む。				
		◎豊かな心を育てる。		○学習習慣と読書習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上や、豊かな心と自ら学ぶ力の育成を図る。				
				○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。				
				○五條の「ひと・もの・こと」に出会い、五條の自然や生活、歴史や文化、人々の良さに気づき、発信することを「五條学」と位置づけ、地域に誇りをもつ児童を育成する。				
		◎心身ともに健康健全な生活を目指す。		○学校教育全体を通して、「いじめのない学校づくり」を目指し、学校生活の中で、児童が明るく生き生きと活動できる環境づくりに努める。				
				○児童が自ら進んで規範意識と基本的生活習慣を身につけようとする意識を高める。				
		◎教職員の働き方改革を推進する。		○教職員が心身共に健康で、充実した教育活動を行える環境を整える。				
評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析） 及び改善方策
確かな学力をつける。	○あきらめずにやりぬく力や自ら考え発見したり、解決したりする力を培い、主体的に学ぶ児童を育む。	系統的に基礎・基本の力を身に付ける取組を実施し、全国学力学習状況調査や標準調査、県診断テストで県の平均を目指す。	C	B	B	●全国学力学習状況調査では、県平均との差が国語で－6ポイント、算数で－5ポイント、県診断テストでは、国語全学年平均－2.8ポイント、算数全学年平均－2.9ポイントだった。県の平均点には至らなかった。	・非認知能力と読解力向上プランに焦点をあてた授業モデルシートを活用した授業を日常的に行う。 ・国語では「漢字の書き」、算数では「数と計算」に焦点をあて、基礎基本の定着を図る。 ・全ての教科において音読を継続実施する。 ・特別活動を中心に、非認知能力の向上に向けた研究授業を進める。	・「授業がわかる」「授業が楽しい」は高い指数を示しているが、各種調査では平均点に至らないことから、結果に結びついていない。ここ数年の学力の推移を調べ、成績が伸びてきているのか確認し、学力向上につなげてほしい。
		めあてと振り返りを重視する五小スタンダードを意識した授業を行うことで、問題解決力を育み、「わかる・できる」を多く感じさせ、「授業が楽しい」という児童を8割以上にする。	A			○「授業がわかる」と回答した児童が96％に達した。 ○「授業が楽しい」と回答した児童が86％に達した。 ●「授業が楽しくない。」と回答した児童が14％いるため、さらに授業研究を重ね、授業力向上を図っていく必要がある。		・既習内容が理解できていないまま次の学習に進んでいないかを確認してほしい。「九九」や「繰り上がりのある足し算」「繰り下がりのある引き算」は、どの学年でも繰り返し学習してほしい。基礎的な計算の力がついていない児童には、学力補充の場を設定してほしい。
	○学習習慣と読書習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上や、豊かな心と自ら学ぶ力の育成を図る。	五條中部学園「家庭学習の手引き」を活用し、モデルを通して、意欲的に宿題や自主学習に取り組む児童を8割以上にする。	B	○質の高い自主学習に取り組む児童が増えてきている。 ●意欲的に自主学習に取り組む児童が75％と、目標には届かなかった。 ●主体的に取り組む児童の育成と家庭への啓発が課題である。		・自主学習のありかたについて再確認していく。 ・今年度の検証を受けて、AIドリルの宿題の持ちかたを検討する。 ・各学年で系統だった宿題の出し方を校内で統一する。 ・高学年の読書量目標を減らし、高学年に合った選書の上、読書の質の向上を目指す。	・読書量を増やす工夫を常に考えることができている。しかし、内容が理解できているかが気になる。日ごろから各教科・領域の授業で読解力を伸ばしてほしい。	
豊かな心を育てる。	○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。	図書館司書（ブックソムリエ）との連携のもと、「読む・知る・つながる」をテーマにした読書活動の活性化を図ることで児童の読書意欲を高め、読書量目標（低学年40冊、高学年4000ページ）達成児童を8割以上にする。	B	B	A	○ブックイベントに進んで取り組む児童や、隙間時間に本を読んでいる児童の姿が多く見られた。 ○学校図書館で児童書（物語など）を手取る児童の姿が昨年度より多く見られた。 ●読書目標達成児童は7割ほどにとどまり、目標数値には達成することはできなかった。	・自主学習のありかたについて再確認していく。 ・今年度の検証を受けて、AIドリルの宿題の持ちかたを検討する。 ・各学年で系統だった宿題の出し方を校内で統一する。 ・高学年の読書量目標を減らし、高学年に合った選書の上、読書の質の向上を目指す。	・読書量を増やす工夫を常に考えることができている。しかし、内容が理解できているかが気になる。日ごろから各教科・領域の授業で読解力を伸ばしてほしい。
	○五條の「ひと・もの・こと」に出会い、五條の自然や生活、歴史や文化、人々の良さに気づき、発信することを『五條学』と位置づけ、地域に誇りをもつ児童を育成する。	ふるさと学習の充実を図り、仲間とともに、ふるさとの良さを発信したいと思う児童の割合を8割以上にする。	A			○「自分は、友達や周りの人を大切にしている」と回答した児童の割合が97％に達した。 ○「自分は、友達や先生から大切にされている」と回答した児童の割合が91％に達した。 ○「学校が楽しい」と回答した児童は92％に達した。	・校内ふるさとかるた大会をさらに活性化させる。 ・年間計画に沿って、発信する場を設け、相手意識をもたせて、ふるさと学習に取り組ませる。 ・年間指導計画と五條学活用資料の見直しと更新を行う。	・「おはよう」と声をかけると、元気に「おはようございます」と返してくれる。あいさつや心の育成について根拠から実施してくれていると感じる。今後も継続して、心の育成に取り組んでいきたい。
	○学校教育全体を通して、「いじめのない学校づくり」を目指し、学校生活の中で、児童が明るく生き生きと活動できる環境づくりに努める。	いじめの早期発見及びいじめへの対処等を組織的に行うために、毎週月曜日に児童共有をしたり、学期に一回以上SCと連携してアセスメントをしたり、いじめの兆候が見られたら即日いじめ対応校内委員会によるケース会議を開催したりする。	A			○終礼や会議での児童共有や気づき見守りアプリの活用、また、学期に一回以上SCと連携してアセスメントを行うなど、組織的に動くことができた。 ○児童アンケートを活用し、気になる児童の共有を行うことができた。 ○いじめの兆候が見られる事案が発生した際に、即日いじめ対応校内委員会によるケース会議を開き、早期に問題解決に至ることができた。	・今後も気づき見守りアプリや児童アンケートを活用し、児童の共有を全職員で行い、気になる児童を見守る。 ・児童アンケートを活用、共有し、気になる児童に対して声かけを行う。 ・スクールカウンセラーと連携し、引き続き情報共有を行う。	・教職員の児童理解の研修も進めてほしい。
	○児童が自ら進んで規範意識と基本的生活習慣を身につけようとする意識を高める。	『五夢りん宣言』を題材にした授業や月ごとの振り返りを行うなど、自己の生活を見直し、「五夢りん宣言をしっかり守り、けじめのある生活をしている」という児童を8割以上にする。	B			○『五夢りん宣言』をしっかり守り、けじめのある生活をしている』と答えた児童の割合が、89％と目標を超えた。 ●学校全体として、「時間を守る」「廊下歩行」という意識をさらに高めていく必要がある。	・特別活動の委員会活動で、「廊下歩行」等について話し合いを行い、それぞれの委員会で改善に向けた方法を考えさせる。 ・ネット・スマホ講座を開催したり、アウトメディア通信を発行したりして、家庭への啓発を継続する。 ・元氣アップ週間のシートに、アウトメディアに関するめあてと振り返りができるよう設定する。 ・家庭でメディア利用の約束事を設定し、それを守ることができるようアンケートを行うとともに、家庭への啓発を粘り強く行う。	・規律を守り、健康な体を作っていくことはよくできていると感じる。「五夢りん宣言」を中心に、子どもたちの心身に届く教育ができていていると感じる。
心身ともに健康健全な生活を目指す。	○様々な運動に対しての体の動かし方やコツがわかる授業作りと、体育的活動を充実させ、児童の体力の向上と運動好きの増加を図る。	1年間を通してなわとび運動に取り組むとともに、校内外遊びチャレンジ登録数を500以上にする。	A	A	B	○今年度は新しい種目を取り入れることで、より前向きに外遊びチャレンジに参加する児童が増加し、登録数が500を上回ることができた。	・各単元での場の工夫などの支援方法を提案し、苦手な児童へのアプローチを行う。 ・ワークシートや見学者カードを活用して学習を行う。 ・運動量の確保を念頭に置いた授業を展開する。 ・ICT機器を活用し、個々の課題と向き合えるような授業を行う。	・「体を動かすことが好き」という割合が高く、水泳や駆け足を中心に、体力向上を進められていると感じる。知・徳・体の耐性をさらにのばしてほしい。特に、女子児童の体力作りに努めてほしい。
		学習カード等を活用して個々の目標を設定させ、意欲をもって運動に取り組むことのできる授業を行い、「体を動かすことが好きだ」という児童を8割以上にする。	A			○学校全体で様々な取組を行うことを通して、「体を動かすことが好きだ」と回答した児童の割合が87％に達した。 ○体育授業年間計画を活用することで、各学年の体育科授業の活性化につながった。	・体育委員会を活性化し、外遊びチャレンジに全校児童が積極的に参加できるような取組を考える。	
	○児童が自ら進んで規範意識と基本的生活習慣を身につけようとする意識を高める。	『五夢りん宣言』を題材にした授業や月ごとの振り返りを行うなど、自己の生活を見直し、「五夢りん宣言をしっかり守り、けじめのある生活をしている」という児童を8割以上にする。	B			○『五夢りん宣言』をしっかり守り、けじめのある生活をしている』と答えた児童の割合が、89％と目標を超えた。 ●学校全体として、「時間を守る」「廊下歩行」という意識をさらに高めていく必要がある。	・特別活動の委員会活動で、「廊下歩行」等について話し合いを行い、それぞれの委員会で改善に向けた方法を考えさせる。 ・ネット・スマホ講座を開催したり、アウトメディア通信を発行したりして、家庭への啓発を継続する。 ・元氣アップ週間のシートに、アウトメディアに関するめあてと振り返りができるよう設定する。 ・家庭でメディア利用の約束事を設定し、それを守ることができるようアンケートを行うとともに、家庭への啓発を粘り強く行う。	・規律を守り、健康な体を作っていくことはよくできていると感じる。「五夢りん宣言」を中心に、子どもたちの心身に届く教育ができていていると感じる。
推し教進方職す改員の革の働	○教職員が心身共に健康で、充実した教育活動を行える環境を整える。	ICT機器を活用した業務改善やノー残業デーの設定、業務についての話し合いの場を毎学期に設けるなどの取組により、1ヶ月の全職員の平均時間外勤務を45時間以内にする。	A			○87％の職員が肯定的な意見を出しており、全職員の平均時間外勤務が45時間を越えたのは4月のみだった。 ○授業等の持ち時間数が約22時間ほどに調整できたことにより、教材研究や事務仕事の時間を捻出することができた。	学校サイトを運用し、今まで以上に見通しをもつことができるようにしていく。 校時の見直しを行い、職員の教材研究や事務仕事の時間の捻出を図る。	・教育の質を落とさずに、ICTや補助教材を確保し、教育活動を実施してほしい。
今年度の成果と次年度への課題		○めあてと振り返りを重視する五小スタンダードを意識した授業を継続的に行ってきたことで、「授業がわかる」と回答した児童が96％、「授業が楽しい」と回答した児童が86％と高水準の結果をもたらすことができた。 ○構成的グループエンカウンターやピアサポートなどの取組を推進してきたことで、自尊感情の向上がみられ、「学校が楽しい」と回答した児童が92％に達した。 ○意欲的に運動に取り組むことのできる授業を行ったり、外遊びチャレンジを充実させたことで、「体を動かすことが好きだ」と回答した児童の割合が87％に達した。 ●「授業がわかる」と回答した児童が96％もいるが、各種学習調査では、県の平均に至っていない。「わかった気になっている」「できた気になっている」ではなく、着実に学力を身につけさせるためにも、国語では「漢字の書き」、算数では「数と計算」に焦点をあて、どの学年でも繰り返し学習を行うことを徹底する必要がある。 ●平日2時間以上スマホやケータイを使用している児童が5割もいることは大きな課題である。メディアの過剰利用と学力には大きな因果関係が認められていることから、児童へのアウトメディアに関する授業を行ったり、家庭にはメディア利用の約束事を設定し、それを守ることができるようアンケートを行うとともに、家庭への啓発を粘り強く行ったりしていく必要がある。						